

わらびて



二戸市

国史跡九戸城跡 いしざわだて 石沢館 姿を現した石垣

主な内容

- ◆ 令和6年度の発掘調査成果
埋蔵文化財センター …… 2,3P
- ◆ 注目された遺跡 …… 4,5P
- ◆ 春になったら行ってみよう!
九戸城跡 …… 6,7P
- ◆ 令和6年度イベント報告 …… 8P

令和6年度の内容確認調査で、史跡九戸城跡石沢館から記録にない石垣が確認されました。九戸城跡の石垣は、本丸・二ノ丸の大手土橋など、城の重要箇所^{じょう}に築かれており、発見された場所は石沢館の出入口と推定されています。

発見された石垣は自然石を5段以上積みあげており、全長が約13.75mあります。また、積みあげた築石には割石^{つぎいし}が見られないことから、九戸一揆後の天正19年～文禄年間(1591～1596)に築かれたと推定されます。

6・7Pに関連記事→

(二戸市教育委員会 柴田 知二)

【所報名について】「わらびて」は蕨手刀(わらびてとう)に由来しています。蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨(さわらび)の芽を巻いた状態に似ていることからこう呼ばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

令和6年度(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの発掘調査

旧石器時代や縄文時代など 8遺跡7万m²を調査



遺跡公開の様子 中埜Ⅲ遺跡(住田町)

令和6年度の発掘調査は、当初計画8遺跡、総面積69,640m²で開始されました。その後2回の面積調整を経て、最終的に69,690m²の発掘調査を終えています。前年度と比較すると、面積はほぼ半減しましたが、調査地は、県央部を主体として県北地区2か所、県南沿岸地域1か所を含む4市3町にわたりました。

旧石器時代 細石刃が出土

令和4年度の調査で石器集中箇所が確認されている北上市岡田遺跡から、最終末期にあたる石器が出土しました。細石刃と呼ばれる柄に装着するタイプのもので、本遺跡には少なくとも



重複する縄文時代の住居 中埜Ⅲ遺跡

二つの時期の旧石器文化が存在していたことが明らかになりました。

縄文時代 継続調査遺跡で成果

2年目の継続調査を実施した花巻市折居遺跡^{おりい}では、縄文時代前期から中期にかけての集落が調査区西側に広がるのが判明し、加えて晩期の貯蔵穴群も新たに確認されました。昨年度内容確認調査を行っていた住田町中埜Ⅲ遺跡^{なかぞね}からは、石列を伴う堅穴住居や4本柱からなる掘立柱建物、墓などが見つかりました。遺物には、石棒や石剣といった祭祀具^{さいしぐ}やその素材となる礫も多く見られることから、本遺跡は後期から晩期に存在した、一般的な集落とは性格を異にする遺跡と考えられます。この他、3年目の調査となる岡田遺跡からは、これまで同様、縄文時代の落とし穴が165基確認されました。3か年での総数は600基以上を数えますが、それ自体の形状や配列などを検討することで、新たな狩猟の様子が見えてくることなのでしょう。同様の落とし穴は、洋野町弥栄XⅢ遺跡^{いやさか}からも溝形タイプのものが3基見つかっています。また、二戸市の上野々遺跡^{うえのの}では、旧河道から中・後期の土

器片が出土しています。

弥生時代
から中世

胆沢地区で
3遺跡

奥州市の中井遺跡からは、弥生後期^{とこなめさん}の土器片と平安時代末期の常滑産陶器片やかわけが、今年度で3回目の調査であった奥州市中林下遺跡^{なかばやし}、金ヶ崎町堀切後遺跡^{ほりきりうしろ}では、土師器・須恵器^{はじきすえき}の破片が出土しました。遺構は、中林下遺跡から掘立柱建物2棟のほか、廃棄された坏^{つき}などが出土した土坑や重複する溝2条が確認されています。



並ぶ落とし穴と近世の建物跡 岡田遺跡

近世

お墓や屋敷跡など

前述した中井遺跡からは、人骨片とともにガラス玉や寛永通宝、煙管などの副葬品^{きせる}を伴うお墓が見つかりました。さらに耕作痕や足跡を残す水田跡が一面確認され、これらには白っぽい火山灰が含まれる可能性があることから、火山灰や土壌を分析することにより、機能した年代や内容が明らかになるものと思われます。その他、岡田遺跡では近世初めの掘立柱建物4棟と、それらに付属する溝や井戸が確認されています。



平安時代の遺物が廃棄された土坑 中林下遺跡

まとめ

今年度は、継続調査を実施した遺跡を中心に新たな成果がありました。次年度以降も発掘調査は続きます。今後も新しい情報の発信に努めますので、ご期待ください。(調査課)

令和6年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	市町村	主な時代	調査面積 (㎡)	事業名
1	中林下遺跡	奥州市	縄文時代・平安時代	2,390	一般国道4号水沢東バイパス
2	中井遺跡	奥州市	平安時代・近世	1,320	経営体育成基盤整備事業 (東田西部地区)
3	堀切後遺跡	金ヶ崎町	縄文時代	700	農地中間機構関連農地整備事業(原・蟹沢地区)
4	折居遺跡	花巻市	縄文時代	3,300	農業農村整備事業(農業競争力強化基盤整備事業 経営体育成型)(太田地区)
5	上野々遺跡	二戸市	縄文時代	160	畑地帯総合整備事業 (穴牛・村松・谷内地区)
6	弥栄XⅢ遺跡	洋野町	縄文時代	1,750	地域連携道路整備事業
7	岡田遺跡	北上市	旧石器時代・縄文時代・近世	56,500	北上北部産業業務団地
8	中埠Ⅲ遺跡	住田町	縄文時代	3,570	林業関連施設整備
	合計8件8遺跡			69,690	

注目された遺跡

盛土遺構と台地南側を調査

はってん
八天遺跡
北上市

八天遺跡は縄文時代後期中葉を中心とする集落跡です。昭和43・44年、50～52年、平成20年、令和2～5年の10次にわたって調査を行い、特異な大形円形建物跡と、耳・鼻・口形土製品などの重要性から、昭和53年に国史跡に指定されました。本遺跡は縄文時代中期末葉～後期初頭にかけて拠点的な集落が営まれ、後期前葉になるとモニュメント的性格を有する大型掘立柱建物が造られるようになり、後期中葉～後葉には大形円形建物と墓域を中心とした葬送空間として利用されたことが分かっています。

令和6年度は史跡整備に先立ち、台地北側緩斜面に分布する盛土遺構(SM151)の範囲確認と、台地南側高所の遺構内容確認を目的として調査を実施しました(第11次調査)。

盛土遺構の時期と範囲を確認

盛土遺構(SM151)は、幅25m以上、長さ40m以上にわたって分布し、出土遺物から斜面高所ほど古く(中期末葉)、低所ほど新しい(後期中葉)時期に形成されたことが明らかになりました。後期後葉の遺物は出土しなかったため、後期中葉までに盛土遺構の形成は終了したものと考えられます。

大型柱穴を検出

台地南側では縄文時代の遺構密度が低く、平安時代(9世紀後半)の竪穴住居跡が多く確認さ



大型柱穴(西から)



盛土遺構(SM151) 遺物出土状況(北西から)

れました。縄文時代の遺構密度は、台地中央部(大形円形建物跡周辺)に近づくほど高くなるようです。中でも注目されるのは大形円形建物跡の南約30mの地点で確認された柱穴です。直径1m、深さ1m、柱痕跡の直径0.5mを測る大型柱穴です。柱痕からは折れた小型石棒2点と後期中葉の土器片2点が出土しました。これらの遺物は、柱抜き後の祭祀儀礼に際して埋められたと考えられます。大形円形建物跡と同時期の柱穴であることから、これと関係性を有する掘立柱建物跡が存在するかどうかを確認するために周辺部を引き続き調査する予定です。

(北上市教育委員会 矢浦 美樹)



大型柱穴の柱痕から出土した遺物

注目された遺跡

きつぷし
木節遺跡
盛岡市

平安時代の焼き物の里

きつぷし
木節遺跡は、県立盛岡工業高校の北西に位置します。脇に小川が流れ、市街地を一望できる丘陵の斜面です。付近ではゆがんだり溶けてくっついたりした平安時代の須恵器が拾え、ふもとの飯岡林崎Ⅱ遺跡でも同様の土器が出土しています。これらは焼成時の失敗品で、近くに須恵器窯跡の存在が予想されていました。

須恵器は、工人が回転台で成形しあながま 甞窯で焼く青灰色の硬い土器です。803年に政府の役所「志波城」が造営された後、盛岡周辺の平安時代の集落に多く流通するようになりますが、その窯や工房は明らかではありません。

今回の調査で見つかった遺構は、平安時代の竪穴建物跡1棟、土坑1基、遺物包含層です。出土遺物は、平安時代の土器(須恵器、あかやき土器、土師器)、窯体片(須恵器窯本体の破片)などコンテナ約80箱です。土器の多くは失敗品で、9世紀後半～10世紀のものです。

竪穴建物跡—須恵器工房跡—

竪穴建物跡は、中央に回転台を据え付けた穴(ロクロピット)がある土器製作工房跡です。炭化材が多く出土し、竪穴建物部材には珍しい角材や仕口加工されたものがありました。

土坑—須恵器窯の物原ものぼら—

土坑は、白い粘土層を横に掘り込んで崩落した様子が断面で観察されたため、粘土採掘坑として掘られたものと考えられます。灰白色火山灰が埋土上層に堆積し、大量の失敗品土器、窯体片、炭や焼土で埋没していました。採掘の終わった粘土採掘坑を、斜面上部ものぼらの須恵器窯から出る不要物を投棄する「物原」として使ったものと言えます。

出土土器は、須恵器の坏・壺・長頸瓶・大甕・甕・壺、あかやき土器の坏・甕、土師器高台付坏などです。集落遺跡ではあまり見られない須恵器の小形壺、小形蓋、小皿なども出土しました。



①全景(北東から)
②土坑
③土坑遺物出土状況
④竪穴建物跡のロクロピット

これまで、盛岡周辺の須恵器窯跡は紫波町の2か所しか知られておらず、盛岡周辺の平安時代集落遺跡から多く出土する須恵器の産地や供給の様子は不明でした。木節遺跡は今のところ県内最北の須恵器窯跡と言えます。今後、出土資料の調査をし、技術や流通など当時の社会の一端が明らかになればと思います。

(盛岡市遺跡の学び館 今野 公顕)



春になったら行ってみよう！

整備の進む国史跡 九戸城跡

二戸市

史跡九戸城跡は、馬淵川と白鳥川の合流地点に築かれた平山城です。元々は九戸氏の居城として築かれ、天正19年(1591)の奥羽再仕置き後に、南部氏が居城する福岡城となります。

平成元年度から調査を継続

九戸城跡は、史跡の整備に先立ち内容確認調査を実施しています。平成元年からの本丸調査では、福岡城時代に石垣が築かれ、ほぼ全体が普請されていたことが判明しています。二ノ丸東側上段平場の調査では、九戸城時代の遺構が初めて確認され、九戸城時代に大きく改修されていたことが確認されました。

平成28年度からの、二ノ丸大手、^{からめて}搦手の調査では、福岡城時代に大手、搦手の虎口を土塁で新しく築き直していたことが分かっています。二ノ丸大手は外門、内門を備え、家臣居住地の在府小路を繋ぐ土橋には石垣が築かれていました。

令和4年度からは、石沢館^{いしざわだて}の内容確認調査が始まりました。石沢館や若狭館は、天正19年に改修を受けることなく九戸城時代の姿をそのまま残していると考えられてきました。令和6年度の石垣の発見により福岡城時代にも利用されていたことが分かっています。



馬淵川と白鳥川に囲まれた広大な天然の要塞 北西上空から

土の城から石の城へ

福岡城時代は石材を多用して普請された石の城です。本丸と二ノ丸の間の堀跡には、当時の石垣がそのまま残っています。南堀跡では、城を使えなくし石垣を崩した痕を目にすることができます。

九戸城時代には、広大な曲輪の平場が連続して広がっています。曲輪の間を画す堀跡、堀底道は往時の面影を残しており、土の城をそのまま見ることができます。



城の構成や石垣の様子が描かれた絵図(江戸時代)
二戸市教育委員会蔵(天地逆に掲載)

の断面構造が見られる施設を設けています。

史跡九戸城跡は国民の共有財産であるとともに、地域に根ざしたものです。今後は地域の人々が身近に存在を感じ、かけがえのない場所になることを目指しています。

(二戸市教育委員会 柴田 知二)

ガイドハウスに寄って いざ出陣!

戦国そのものの風景が感じられる九戸城跡ですが、近年の整備で訪れやすい環境になっています。まず、三ノ丸にあるガイドハウスで九戸城のあらまし、見どころをチェックし、パンフレットをもらって、いざ、出陣!

開館時期 4月(例年4月6日)～11月

開館時間 10時～15時

連絡先 二戸市観光ツーリズム協会
電話 0195-23-3641

駐車場有

ガイドを依頼する場合は
1週間前までに要予約



地域の人々の身近な場に

第2期整備では、本丸地区、二ノ丸地区の整備を実施しています。整備する時代は、寛永13年(1636)に廃城された福岡城です。本丸では内郭の地形段差や段差を行き来する通用路、発見された掘立柱建物跡や見切りの立石が整備されています。また、二ノ丸では緑地整備の他、九戸城時代の堀跡、門、柵跡の平面表示や土塁

公開講座・遺跡報告会

いわて県民情報交流センターアイーナ

1/25 日

公開講座は、国立科学博物館館長篠田謙一さんに「日本人と食の関わりー自然の恵み、人々の知恵ー」と題して講演していただきました。

今日の様々な食材の起源や和食の成立過程、日本列島に住む人類集団形成のシナリオなど世界的な視点からの分野を越えたお話でした。

埋蔵文化財センターが調査した沿岸の遺跡から出土した食材にも触れ、日本人の食が自然環境と歴史によって形成されてきたことを解説していただきました。特に日本史上、食料獲得



国立科学博物館館長 篠田謙一さんの講演

法のみならず社会の大変換点であった縄文時代から弥生時代への変化が、もともと中国大陸で雑穀栽培を行っていた集団が朝鮮半島へ拡散し、日本へ流入してもたらされたことを、専門のDNA人類学から解説していただきました。

つづく遺跡報告会では、埋蔵文化財センターが東日本大震災からの復興調査で明らかになった三陸沿岸の食文化について報告しました。また、今年度調査の遺跡からは、縄文時代の住田町中塚Ⅲ遺跡の調査成果を報告しました。



三陸沿岸の食文化ー縄文時代の食ーについて報告

埋蔵文化財展

大槌町文化交流センターおしゃっち

11/2~4 月祝

今年度の埋蔵文化財展は、「発掘された大槌町の歴史」をテーマに大槌町教育委員会と共催し、埋蔵文化財センターが調査を行った町内6遺跡のほか、大槌町教育委員会が調査を行った江戸時代の2遺跡の出土遺物を展示しました。

赤浜Ⅱ遺跡の不思議な形の縄文土器や土偶、夏本遺跡の奈良時代の赤彩の壺、田屋遺跡の鉄



赤浜Ⅰ遺跡、夏本遺跡などの遺物を展示

づくりの遺構のほか、大槌代官所跡、町方遺跡の江戸時代の暮らしの痕跡などをご覧いただきました。

来場者からは、「9千年前から人々が生活していたことを知り、驚いた。」「昔の暮らし、生活ぶりがわかって、勉強になった。」などの感想が寄せられました。縄文服試着体験、土器パズルの体験コーナーもにぎわいました。

発行 岩手県立埋蔵文化財センター
 編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
 〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185
 電話 : 019-638-9001
 F A X : 019-638-8563
 E-Mail : i-maibun@echna.ne.jp
 U R L : http://www.iwate-maibun.jp/
 発行日 令和7年2月28日